

2010-10

学会通信

平成 22 年 10 月 10 日

NO.70

工業経営研究学会
Association for the Study of
Industrial Management (Japan)

第 25 回全国大会（国際大会）の報告

大会実行委員長 劉 仁傑（台湾・東海大学）

第 25 回全国大会は「2010 工業経営研究学会国際大会」として、「アジアのものづくり経営と日台協働」という統一論題で、去る 8 月 27 日(金)～28 日(土)の 2 日間、台湾・台中市の東海大学において開催されました。

今大会における工場見学、特別記念講演、自由論題や統一論題の報告と議論、懇親会を通じて、台湾と日本のより一層深い信頼関係が見られるようになったことをご参加の方々は認識されたかと思えます。特にリーマンショック以降の新しい経済情勢、つまり中国の市場を考慮に入れてアジアでのものづくり経営を考える際には、日台の協働はより多様に変化しつつ、一層重要な位置づけになってきていることを改めて確認しました。こうしたインパクトを受けて、今後の産業界における実行と学界における研究や教育がさらに進化していくことを確信しています。

本大会の参加者は、日本側 103 名(内会員 73 名)、台湾側 110 名(内会員 8 名)でした。台湾側の参加者は、産業界と学界(学者・院生)から半々で構成されていることが大きな特徴でしょう。台湾的だともいえる懇親会においても、日台が半々で各テーブルを囲み、19 テーブルで約 185 名の多くが参加されました。懇親会が始まってまもなく、貫会長も各テーブルの活発な交流に感銘され、「各々のテーブルを見てください、全員と言えらるぐらい楽しく会話されていますよ」と言われました。学者間の交流だけにとどまらず、産学の交流も大に行われました。約 2 時間半を経過し、最後に全員が起立して、来年大阪の摂南大学で再会することを期待しつつ、星影のワルツを合唱し、盛り上がったまま懇親会を終えました。

なお、本大会が成功に終わった背後には、貫会長や学会事務局、グローバル化研究分科会のご支援、そして当学会の外郭である生産システム研究会と大阪市立大学アジア研究グループによる各々の台湾視察団の結成に支えられたことがあります。そして、地元台湾における実行委員会の仲間が精力的に頑張った結果だと思えます。ここに皆様方のご協力の程を記して、厚く御礼を申し上げます。

『2010 工業経営研究学会国際大会予稿集』

に関するお知らせ

工業経営研究学会第 25 回全国大会は、国際大会として台湾台中市の東海大学で開催されました。特別講演の PPT、統一論題や自由論題の論文、参加者名簿等を収録した予稿集 (p.239) に関しましては、内容もデザインも良かったと評判になりました。現在、事務局に約 15 冊が残っております。今回参加されていない方々のなかで、ご希望がありましたら、事務局の張馨文 (E-mail : esp422@gmail.com) までその旨をご連絡ください。1 冊につき 2,000 円(航空郵送費込み)です。

ご連絡を受け次第、予稿集と日本からの振込方法のご案内をお送り致します。

学会誌編集委員会からのお知らせ

学会誌編集委員会 委員長 小泉 國茂

1. 学会誌『工業経営研究』第25巻に掲載する自由投稿論文の原稿を募集致しております。投稿要領については、『工業経営研究』第24巻の「自由投稿論文に関する規定」(225頁)をご参照下さい。
2. 第25回全国大会(国際大会:於:台湾・東海大学)、各地方部会、研究分科会においてご報告された方を対象に、学会誌『工業経営研究』第25巻に掲載する論文の原稿を募集致します。投稿要領については、『工業経営研究』第24巻の「『工業経営研究』編集規定」(223-224頁)をご参照下さい。
3. 各部会において発行された Working Paper 一覧をご連絡ください。『工業経営研究』第24巻の例(220-222頁)を参考にして、部会において発行した Working Paper 一覧を取りまとめて、その抄録(200字程度)を送付して下さい。

いずれの場合も、送付期限は2011年3月31日(木)【必着・厳守】です。期限を過ぎますと投稿資格を失いますので、十分にご注意ください。

原稿は、下記の原稿送付先まで、プリントアウトした原稿(必要部数)と原稿データを保存したCD(使用OS名、作成アプリケーションソフト名、論文題名、所属、氏名を明記のこと)を添えてご郵送ください。

尚、レフリーによる審査が必要な論文につきましては、送付期限後に取りまとめて審査を行うこととなります。送付期限前に原稿をご送付いただいた場合も、審査は2011年4月1日以降となりますのでご了承ください。

【原稿送付先】

〒569-1022 高槻市日吉台1番町14-9 小泉 國茂

E-Mail : poponana@da2.so-net.ne.jp

第25回 全国大会(国際大会) 会員総会 議事録

2010年8月27日 17:00~18:00 於:台湾・東海大学

総会に先立ち、逝去された森俊治名誉会員に黙祷をささげた。

【審議事項】

1. 2009年度 事業報告、決算報告、監査報告

貫会長より、学会誌Vol.24を発行したこと、20周年記念出版として第1巻と第2巻を発行し、年内には第3巻を発行予定であること等が報告された。

続いて、西事務局長より、別紙資料に基づき決算報告があった。

次に、山口会計監事欠席のため、羽石学会監事より決算監査報告の代読があり、審議の結果承認された。

2. 2010年度 中間決算報告

西事務局長より、別紙資料に基づき決算報告があり、承認された。

3. 2011年度 事業計画、予算

まず貫会長より、来年度事業計画について、財政的にきびしい状況にあり、来年度は特別大きな事業は難しい。ただし、会員数が増加傾向にあるとともに、納入率も向上しているので、会費値上げを避ける努力を当分続けたいとの説明があった。

次に、別紙資料に基づく予算説明の後、風間副会長より支出の見直し等に取り組む必要があるとの指摘があった。審議の結果、承認された。

4. 工業経営賞の授与

貫会長より、特別講演の友嘉実業集団の陳向榮総経理に授与したい。陳氏は日台共同をまさに実践されているとの説明があり、承認された。

【報告事項】

1. 会員の異動

風間副会長より、会員の現状について、次の通り説明があった。

- ・ 名誉会員 5名
- ・ 正会員 261名
- ・ 院生会員 49名
- ・ 総会員数 計315名（2010年8月1日現在）

2. 第26回全国大会について

貫会長より、来年度は摂南大学での開催を予定している旨の説明があり、同大学の黒沢先生よりあいさつがあった。

3. 学会賞等の審査結果

表審査委員長より、今年度学会賞の該当者はいないが、研究奨励賞が村上喜郁会員と木野龍太郎会員の今回発行された学会誌掲載論文をはじめとする一連の研究に対して授与されることになった旨説明があった。その後、当日大会に参加していた村上会員に対して、仮の表彰状が貫会長より授与された。

4. 出版計画について

すでに会長から説明のあった通りである。

5. 地方部会活動報告

地代副会長より、西日本部会が中心となって開催した「森俊治先生追悼特別研究会・しのぶ会」の報告があった。その他の部会活動については、時間の関係で学会ホームページや学会通信で確認していただきたいとの説明があった。

以上

東日本部会開催のお知らせ

工業経営研究学会 東日本部会長 鈴木幸毅

拝啓 爽やかな秋の季節を迎え、ご活躍のことと思います。下記のように東日本部会を企画いたしました。開催の趣旨は、①産業界の方の話を聴く、また、②近年、他部会からの転入や学会加入により新たに東日本部会の会員になられた方の研究課題を知る、というものです。ご多用の折とは思いますが、是非ご参加下さるようお願い致します。なお、プログラム中の研究紹介の詳細は決まり次第、学会 HP に掲載する予定です。敬具

記

1. 日 時：2010年11月13日(土) 午後1時30分～5時
(交流会・懇親会 午後5時～)
2. 場 所：明治大学駿河台研究棟 2階第9会議室
3. 参加費：500円
4. プログラム：
13：30 開会の辞 鈴木幸毅氏(東日本部会長)
13：35～14：30 (質疑含む)

特別講演 三井一郎氏(小松フォークリフト㈱社長、会長を経て現在コマツ顧問)

「日本の製造業は生き残れるのか？」

ーコマツのグローバルイゼーションを事例としてー」

(参考文献：安崎暁・西藤輝・渡辺智子『日本型ハイブリッド経営』中央経済社、
2010年9月刊、2,400円+税 (コマツの躍進の秘訣を述べています))

- 14：30～14：45 休憩
14：45～15：55 転入会員、新規会員の研究紹介①
15：55～16：00 休憩
16：00～16：30 転入会員、新規会員の研究紹介②
16：30～17：00 全体議論「東日本部会のあり方」
17：00～17：30 交流会(立式懇談)
18：00～ (会場を移して) 懇親会

*2008年以降の転入・加入の会員は、約10分程度の時間を想定し、研究内容の紹介レジュメ(A4用紙)をご用意願います(プロジェクターの使用も可能です)。

参加者リスト作成の都合上、出席の方は下記のメールあるいはFAXにご返信願います

連絡先；東日本部会事務局： 〒321-3295 宇都宮市竹下町908 作新学院大学

経営学部 中島洋行 E-Mail：hiro-nakaji@r5.dion.ne.jp

FAX : 028-667-7110

(作新学院大学経営学部中島洋行宛と明記) 以上

グローバルゼーション研究分科会

海外企業視察報告

今年は台湾の東海大学において全国大会（国際大会）が開催されたことから、当研究分科会恒例の海外企業査察も、台湾の台北と台中の企業を訪れることにした。日程は、大会に先立つ8月24日～27日までであり、参加者はこれまで最大の25名となった。具体的な訪問先企業等は次の通りである。

- ・中衛発展センター……………（官民出資による企業支援組織）
- ・正隆（股）公司……………（台湾の代表的な製紙メーカー）
- ・植大橡塑膠業（股）公司…（ゴム製品メーカー）
- ・台技塑膠（股）公司……………（プラスチック製品メーカー）
- ・谷全実業（股）公司……………（食品製造の中小企業）
- ・紹興酒醸造所……………（元専売公社）

*ワーキングペーパーの募集

今年も企業視察参加者のワーキングペーパーを募集します。提出先と締め切りは次の通りです。

提出先：那須野公人（作新学院大学）E-Mail : nasunok@a1^{イチ}.mbn.or.jp

（原稿は、メール添付でお送り下さい。）

締 切：1月末日

工業経営研究学会 学会通信 70 号（10-10） 2010.10.10

発行人 貫 隆夫 編集担当 那須野公人

学会事務局 明治大学 商学部 風間信隆

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

明治大学駿河台研究棟 839 号室

E-Mail nobutaka@kisc.meiji.ac.jp

ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/asimj/index.html>